

I. 神奈川県内 b. 溶岩

(2) 箱根前期中央火口丘溶岩 露頭レプリカ再生標本

標本番号 KPM-NP 23

標本名 箱根前期中央火口丘溶岩 露頭レプリカ再生標本

大きさ 幅 1.25 m, 高さ 2.4 m

重量 55.5 kg (板付き)

形状・展示・収納状況 板に固定した状態で大収蔵庫平置きスペースに収蔵

採集地 神奈川県小田原市入生田

緯度・経度 N35°14'16", E139°07'19"

標高 60 m

露頭の種別と現状 河岸の自然露頭、現存

露頭面の向き、傾斜 N45°E、85°N

堆積物の種別 溶岩、降下テフラ (陸成層)

年代 0.13 ~ 0.08 Ma (箱根火山前期中央火口丘溶岩、長井・高橋, 2008)

採集作業者 森山哲和 (考古造形研究所)

採集立会い者 山下浩之、笠間友博

採集日 2008 年 4 月 5 日

関連文献等

大島光春 (2008) メイキング・オブ・「箱根火山」展 (2) ~ 展示準備編 ~. 自然科学のとびら, 14(2): 16.

日本地質学会国立公園地質リーフレット編集委員会 (2007) 1. 箱根火山. 日本地質学会, 東京.

解説 箱根湯本から早川右岸に沿って分布する箱根火山前期中央火口丘湯本茶屋・湯場溶岩 (日本地質学会, 2007) の露頭を型取りし、作製した標本である。ここでは薄くクリンカーの発達した悪い安山岩質溶岩が水平に 3 枚 (L1 ~ L3) 見られる。厚い溶岩が主体の前期中央火口丘溶岩群において特異な岩相を示している。溶岩 (L1) の全岩化学組成は SiO_2 : 57.12 %, TiO_2 : 0.85 %, Al_2O_3 : 16.64 %, Fe_2O_3 : 9.30 %, MnO : 0.17 %, MgO : 4.14 %, CaO : 8.26 %, Na_2O : 3.01 %, K_2O : 0.40 %, P_2O_5 : 0.12 % であった。溶岩の間には腐植質の火山灰土層があり、L1 の下位には火山灰土層を介さずに、火山砂と火山角礫より構成される層

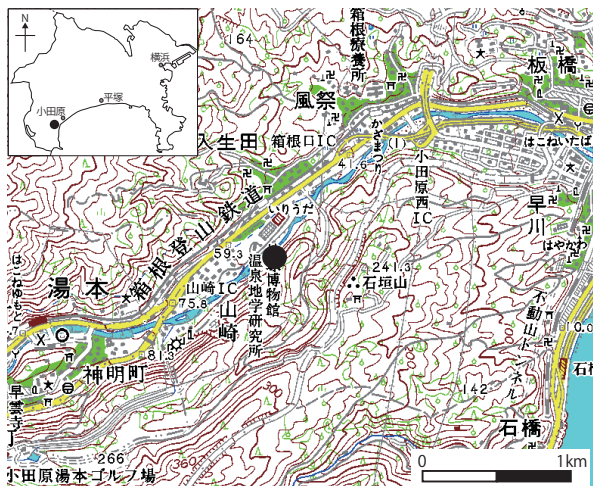


図 1b-2-1. 採集地点 (国土地理院発行の数値地図 50,000 (地図画像)「埼玉・東京・神奈川」を使用)。

が存在する。この部分は石質火砕流堆積物の可能性があるが、火山砂や火山角礫は接状剥離ではないため詳細部は再現されていない。

記録者 笠間友博



図 1b-2-2. 型取り標本の採集の様子 (上: 法面の垂直方向を測定しているところ, 下: 引っ張って剥がし取っているところ)。



図 1b-2-3. レプリカ再生標本の展示の様子 (2008 年度特別展「箱根火山～いま証される噴火の歴史～」)。



図 Ib-2-4. 型取り標本の採集露頭. 写真中央右で黄色いヘルメットをかぶった人物が型取りの作業中.



図 Ib-2-5. 露頭を対岸に見ながらレプリカ再生標本を解説する講座の様子 (2010年5月5日, 当館3階テラス).

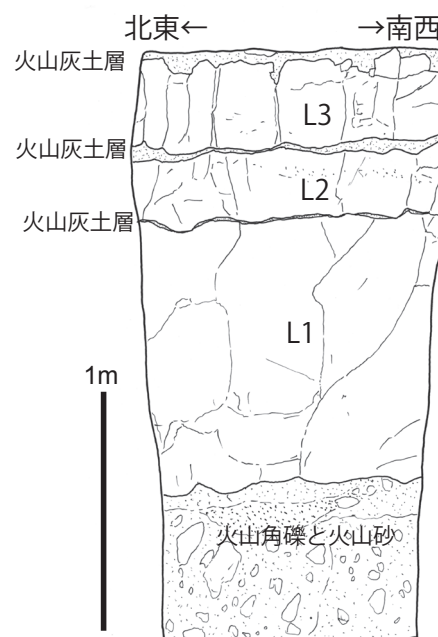


図 Ib-2-6. レプリカ再生標本の写真 (左) とスケッチ (右, 笠間原図).